



平成 22 年 11 月 11 日

各 位

会社名 東和メックス株式会社  
 代表者名 代表取締役会長兼社長 村田三郎  
 コード番号 6775 東証第2部  
 問合せ先 管理部長 佐藤武雄  
 (TEL. 03 - 5684 - 2321 )

平成 23 年 3 月期 第 2 四半期累計期間 (連結・個別) 業績予想との差異  
 及び平成 23 年 3 月期 通期 (連結・個別) 業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向を踏まえ、平成 22 年 5 月 12 日に公表いたしました平成 23 年 3 月期第 2 四半期累計期間 (平成 22 年 4 月 1 日～平成 22 年 9 月 30 日) の業績予想との差異及び平成 23 年 3 月期通期 (平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日) の業績予想について修正いたしましたので、下記の通りお知らせいたします。

記

平成 23 年 3 月期第 2 四半期累計期間連結業績予想数値と実績値との差異 (平成 22 年 4 月 1 日 ～ 平成 22 年 9 月 30 日)  
 (金額の単位: 百万円、%)

	売 上 高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前 回 発 表 予 想 (A)	2,250	15	0	0	0.00
実 績 値 (B)	2,506	△90	△112	△121	△1.69
差 額 (B - A)	256	△105	△112	△121	—
差 額 率 (%)	11.4	—	—	—	—
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 22 年 3 月期第 2 四半期)	2,428	△234	△333	△324	△4.52

平成 23 年 3 月期通期連結業績予想数値の修正 (平成 22 年 4 月 1 日 ～ 平成 23 年 3 月 31 日)  
 (金額の単位: 百万円、%)

	売 上 高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前 回 発 表 予 想 (A)	4,500	80	50	45	0.62
今 回 発 表 予 想 (B)	5,000	△20	△50	△60	△0.83
増 減 額 (B - A)	500	△100	△100	△105	—
増 減 率 (%)	11.1	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成 22 年 3 月期)	4,818	△388	△485	△569	△7.93

平成 23 年 3 月期第 2 四半期累計期間個別業績予想数値と実績値との差異（平成 22 年 4 月 1 日 ～ 平成 22 年 9 月 30 日）

（金額の単位：百万円、％）

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	1,300	△5	△22	△24	△0.33
実績値 (B)	1,497	△31	△44	64	0.90
差額 (B-A)	197	△26	△22	88	—
差額率 (%)	15.2	—	—	—	—
（ご参考）前期第 2 四半期実績 （平成 22 年 3 月期第 2 四半期）	1,442	△97	△134	△112	△1.56

平成 23 年 3 月期通期個別業績予想数値の修正（平成 22 年 4 月 1 日 ～ 平成 23 年 3 月 31 日）

（金額の単位：百万円、％）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	2,700	35	5	0	0.00
今回発表予想 (B)	2,700	△25	△40	65	0.90
増減額 (B-A)	—	△60	△45	65	—
増減率 (%)	—	—	—	—	—
（ご参考）前期実績 （平成 22 年 3 月期）	2,922	△194	△233	△299	△4.17

#### 修正の理由

当第 2 四半期累計期間の連結・個別の業績における売上高については、LED 応用技術を活かした国内向けデジタルサイネージの売上が順調に推移し、新規事業の LED 照明、官公需特注関連部門は低調でしたが若干の増収になりました。

一方、利益面では、景気低迷の影響が著しい料飲業・サービス業を主力市場とした既存販売会社の倒産業によるリストラ費用の発生及び陳腐化した商品の赤字処分等予想外の損失の発生により営業利益、経常利益及び四半期純利益は予想を下回りました。

個別での四半期純利益の増加につきましては、事業の再構築による国内販社の再編・統合による特別利益として関係会社に対する営業権譲渡益（61 百万円）、関係会社他に対する貸倒引当金戻入益（72 百万円）、訴訟損失引当金戻入益（10 百万円）、また、特別損失として投資有価証券評価損（30 百万円）を計上したことによるものであります。

なお、通期業績予想につきましては好調に推移しているデジタルサイネージ事業を中心に省エネ商材である LED 照明及び官公需向け特機商材の投入により国内会社の収益改善を図ります。海外事業の再リストラ並びに国内販社グループの再編統合も引き続き行ってまいります。下半期では、収支の黒字化を図ります。

（注）上記業績予想値は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因により予想数値と異なってくる可能性があります。